

# 宝生会 月並能

## 演目の解説

平成三十一年二月十日（日）

開演 十四時  
開場 十三時十五分  
於 宝生能楽堂

### 能「右近」（うこん）

鹿島の神職の者が、北野の右近の馬場に花をめでにやって来ると、花見車に乗った上臈達に出会います。上臈と神職は「見ずもあらず見もせぬ人の恋しくはあやなくけふは詠め暮らさん」という業平の歌そのままの景色に興を催し、言葉をお交わします。花を廻る物語をし、名所を案内した上臈は、桜葉の神と名乗り、月の夜神楽を待ちたまえと言って花の陰に消え失せます。その夜、神職の夢に北野天満宮の末社、桜葉の神の本体が現れ、優雅な舞を舞い、天に帰って行きます。

## 右近

東川 尚史  
ツレ 澤田 宏司  
シテ 高橋 亘

ワキ 大日方 寛

大鼓 佃 良勝  
小鼓 森 貴史  
太鼓 徳田 宗久  
笛 小野寺 竜一

ワキツレ 野口 能弘

野口 琢弘

間 高澤 祐介

### 狂言「文相撲」（ふずもう）

太郎冠者のつれてきた新参者が相撲好きであると聞いて、早速その腕前をためすべく一番とつてみると、これはいかなことと忽ち負けてしまいます。そこで相撲秘伝書を開いて虎の巻として二番目は勝ちを制しますが、三番目はまた負けてしまいます。腹を立てた大名は、紹介者の太郎冠者を引きずり倒し、溜飲をさげるのでした。

## 文相撲

後見 小林与志郎  
朝倉 俊樹

地謡

亀井 雄二  
小林 晋也  
小倉伸二郎  
大友 順  
金森 秀祥  
佐野 由於  
今井 泰行  
佐野 登

三宅 右近

三宅 近成  
前田 晃一

### 能「鉢木黒頭」（はちのき）

旅の僧が上野の佐野の辺りに差し掛かり、あまりの大雪に宿を求め、外出から帰った主人に一度は断られてしまいますが、妻の口添えもあり泊めてもらいます。暖をとるため秘蔵の鉢の木を薪にくべる主人に感銘した僧が名を尋ねると、佐野源左衛門常世と答え、一族に所領を横領されて貧困を強いられてはいるが、鎌倉に何かあれば直に駆けつけるといふ気概を語ります。僧、実は最明寺時頼が鎌倉に戻り関東に集合を掛けると、その言葉通りに馳せ参じた常世を呼び、自らの正体を明かして横領された所領と、「梅桜松」三本の鉢の木にちなんだ三箇所の莊園を与えます。小書「黒頭」は後シテが黒頭に鍬形を着けて登場します。

## 鉢木

ツレ 野月 聡  
シテ 前田 尚廣

ワキ 殿田 謙吉

大鼓 柿原 弘和  
小鼓 曾和 正博  
笛 一噌 庸二

黒頭

ワキツレ 高井 松男

間 三宅 右矩  
金田 弘明

後見 宝生 和英  
武田 孝史

地謡

高橋 憲正  
和久莊太郎  
水上 優  
小倉健太郎  
金井 雄資  
三川 淳雄  
當山 孝道  
東川 光夫

## 次回予告

平成三十一年三月十日（日）  
午後二時始

春日竜神 野月 聡

桜川 大坪喜美雄  
舞入

終演予定 十七時三十分頃